

資本主義は社会主義に必ず変わる

『空想より科学へ社会主義の発展』に学ぶ

第8回 東京ブロック

歴史の発展法則と唯物史観

社会主義は科学となった

司会||前回、マルクスとエンゲルスは、ヘーゲルの古典、ドイツ哲学とフランスの社会主義(素朴唯物論)に学び、近代唯物論として弁証法的唯物論を完成させたことを学びました。

今回は、歴史の発展法則を学びます。南部協のレポート報告からお願いします。

歴史の弁証法的発展

HTII今回学習する内容は、このテキ

ストの集大成部分と違ってよいでしょう。フランスでは、近代プロレタリアートは未成熟でしたが、プロレタリアートとブルジョアジーの階級闘争は、新たに獲得されたブルジョアジーの政治的支配が発展するに従って、ヨーロッパの先進諸国の歴史の前に現れていたことを、マルクスとエンゲルスは発見しました。

1831年に、絹織物業の一大中心地であったリヨンで、飢餓に瀕した絹織物業の労働者が自然発生的に飢餓暴動を起こしました。しかし、政府の過酷な武力弾圧によって鎮圧されました。

この前年、1830年7月、フランスブルジョア革命が他の諸階級と共に成功して、立憲王政を確立しています。

一方、イギリスでは、ブルジョアジーの勢いが増し選挙権の猛烈な拡張運動を引き起こし、1832年の選挙法の改正を勝ち取り選挙権の拡大が勝ち取られます。こうして、イギリスのブルジョアジーは、政権の座に着きました。

さらに、産業革命で成長したイギリスの労働者階級は、独自の政治活動として、普通選挙権、秘密投票、平等選挙区の要求等、6つの憲章の貫徹をプログラムとするチャーティスト運動を

◆みんなの学習講座

開始し、労働者階級の政治運動へと発展させたのです。

この運動は、イギリス政府の激しい弾圧に係らず、各地の集会も何万、何十万と粘り強く拡大し、1840年代後半には、10時間労働立法問題をはじめ、ストライキの波が拡大し労働者階級の階級闘争が盛り上がりを見せ始めます。まさに、チャーティスト運動は、近代機械工業における産業革命の進展と不可分に結びつき、資本主義の発展によってもたらされた労働者階級の悲惨な状態が労働運動の高まりをつくり、政治へ参加を促していったことにあります。

結果として、このイギリス資本主義社会における労働者階級の運動が、マルクス・エンゲルスに近代労働者階級の歴史的性格の把握のために生きた素材を提供することとなったのです。

こうして、ブルジョア経済学の「労働と資本との利害は同一であり、自由

競争は広く一般に調和と国民福祉をもたらす」という化けの皮がはがされたのです。

一切の歴史は階級闘争の歴史である

SI II特に、イギリスのチャーティスト運動は、マルクスに、従来の一切の歴史を新たに研究しなおす必要を感じさせ、この研究を深化させ、原始時代を除けば、人類の歴史は階級闘争の歴史であったことを明らかにしたのである。そして、階級闘争を行う社会階級は常に生産と交換関係の経済構造が常にその現実の基礎をなし、歴史上の各時代の法律制度や政治制度はもろろん、その他宗教や哲学などの観念様式がすべて上層構造となるという現実（経済構造）の基礎から説明すべきと導きだします。

このことよって、マルクスは、ヘーゲルの歴史観を形而上学から解放し

て弁証法的歴史観を完成させたのです。ここに唯物史観が誕生します。すなわち、従来のように人間の存在をその意識から説明する方法ではなく、人間の意識をその存在から説明する方法を見出したのです。

司会IIありがとうございます。今回は短い文章に重要なものがたくさんありますから、区切つていきます。ここでは、マルクスやエンゲルスは何を研究し、何を発見したかですね。

TK IIフランスでは、近代プロレタリアートが発達していなかったが、よく現実をみると、1831年にリヨンで自然発生的に絹織業の労働者が飢餓暴動を起こしていた。「金よこせ」、「職をよこせ」と要求したのです。この労働者階級の反乱に着眼します。

最初に資本主義社会になり産業革命を経たイギリスは、マニユファクチャーから大工業へ転換し、1832年選挙法でブルジョアジーが政権の座に着

ただだけでなく、イギリスの労働者階級も鍛えられ、普通選挙権などチャーティスト運動を起こし、経済闘争だけでなく政治闘争に発展させ、10時間労働法制などを訴え、ストライキ行動など自ら前面に出て闘いました。

ブルジョアジーとプロレタリアートの利害は相容れない

司会Ⅱ次にレポートの最後にあった「労働と資本との利害は同一であり、自由競争は広く一般に調和と国民福祉をもたらす」という化けの皮がはがされた、とはどういうことですか。

MTⅡ今日でも、騙されていますが、「会社が儲かり発展すること、そこで働く労働者の賃金や労働条件が良くなる。それだから、労働者と資本の利害は一致している」と宣伝しています。確かに、マニユファクチャーで働き得る収入よりは、大工場で働き得る賃

金の方がはじめは多かったかもしれない。後ほど第三章で詳しく学習しますが、産業革命後には約10年周期に恐慌が発生し、その度に労働者階級は首りの犠牲となります。エンゲルスはこれらを『イギリスにおける労働者階級の状態』（1845年）で著わし、マルクスは『資本論』第一巻で理論的に明らかにしました。

労働者階級と資本家階級の利害は同一ではなく、互いに相容れず対立する関係であると解明したのです。司会Ⅱ次に「原始時代を除けば、階級闘争の歴史であった」とは、どういうことですか。

SKⅡ2つの図表を準備しました。参照してください。地球上に人類が誕生したのが約200万年前（現在は700万年前が通説）と言われています。樹上生活していた人類の祖先は、自然環境の激変で、地上生活になり、最初から肩を寄せ合い集団で自然物を狩

猟・採取して生活し、この原始共产制時代は途方もなく長かったのです。

その後、図1、2のように、奴隷制封建制、資本主義と、階級社会に移り、その期間はたかだか5000年なのです。この歴史の移り変わりを弁証法的に考察した時に、その原因を内部矛盾に求めました。社会の土台・下部構造

Ⅱ経済構造の変化・発展で量的変化が質的に飛躍し革命がおこり、上部構造も変化してきたことを発見しました。この下部構造（経済構造）の変化・発展とは、人間は常により良い生活を求め、生産力を高めようとする欲求があります。

これまでの生産関係ではその生産力は発展せず、生産関係を変える必要が出てきます。これは、被支配者階級と支配者階級の階級闘争として表れ「原始時代を除けば階級闘争の歴史だった」と言えるわけです。

司会Ⅱ学校教育ではこのような歴史の

◆みんなの学習講座

	主要な生産手段	支配階級	被支配階級	生産力	階級
原始・封建 社会	手・足・簡単な 労働用具	農に依りて	働き手等に分配	★生産力は低く質を著 り劣って生活	階級社会
封建制 社会	奴隷	封建主	奴隷	生産力を改良、生産力 が少し上がる	
封建制 社会	領地(田・畑)	封建地主	農民	自由人から露かへ 生産力は向上する	
資本主義 社会	原材料・機械等	資本家 ブルジョアジー	労働者 プロレタリアート	自由なモノファクトリー から大工場へ	
社会主義 社会				自由な自由 生産力は飛躍的に発見	

図2

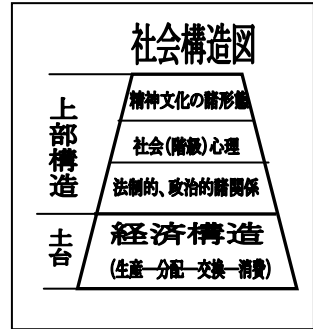


図1

見方は教えませぬね。人間の意識をその存在から説明する唯物史観なるものが生まれたわけですね。

階級闘争の正体は剰余価値だった

司会||続いて、南部協のレポート報告をお願いします。

HTII唯物史観の成立によって、社会主義は、一人の天才の頭脳が偶然発見したものでなく、歴史的に成立した二大階級(プロレタリアートとブルジョアジー)の階級闘争の必然の産物となったことを明らかにします。

唯物史観を承認できない従来の社会主義者は、現存の資本主義的生産方法とその結果を批判したけれど、彼らは、その因果関係を説けず、ただ悪いと非難するだけでした。それに対し、唯物史観の立場にたった社会主義者の任務は、完全な社会制度を空想的に考案することだけでなく、支配階級と被支配階級

の対立とが必然的に生まれきた歴史的な経済的過程を研究し、これによってつくり出された経済状態のなかに、衝突を解決すべき手段を発見することが鍵であることを明らかにしました。

資本主義的生産方法と不可分に結びついている労働者階級の搾取をいかに猛烈に非難しても、搾取がどこに存在するのか、それはいかにして発生するのかを明瞭に説明しなければならぬ。これを説明するためには、資本主義的生産方法を、その歴史的関連において示し、一定の歴史的時期におけるその必然性を説明しなければならぬ。従って、また、その没落の必然性も示す必要がある。それは、不払労働の取得こそ資本主義生産方法とそれによって行われる労働者搾取の基本形態であり、また、資本家は労働者の労働力を商品として、商品市場がもっている価値どおりに買う場合でも、それに對し支払ったより多くの価値を労働力か

ら引き出すこと、つまり、剰余価値がある。このことによつて、資本主義的生産と資本の生産の両方の歴史が明らかになり、マルクスは、剰余価値の暴露を成し遂げることができました。
司会Ⅱわかりましたね。それでは唯物史観の立場にたった社会主義者の任務について提起して下さい。

HGⅡ社会主義者の任務とは、頭の中で考案するのではなく、現実の社会Ⅱ資本主義的生産様式の矛盾を解き明かし、その解決に向けて階級闘争を担う歴史的使命を自覚することだと思います。

司会Ⅱそうですね。では、労働力商品が価値どおり賃金と交換はされています、不払い労働Ⅱ剰余価値を搾取されている、というしくみを簡単に説明してください。

MⅡ詳しくは、本誌2018年3月号『賃労働と資本』を学ぶ」の「商品としての労働力」に掲載されています。参照してください。

要約すると、労働者は労働力商品を資本家に売り、賃金を得て生活しています。労働力商品も他の商品同様にその価格は、社会的平均的に決まります。また社会が成り立つには、価値どおりに交換がされていると仮定し、話を進めます。

パン作りの例で話します。資本家は、パンの原材料と工場の機械などに500万円投資し、そこで働く労働者を500万円の賃金で雇い、パンを作りました。出来上がったパンの売り上げが1000万円では元手は回収できますが、もうけは出ません。例えば1500万円になったら500万円の儲けが出るが、そこでやめられません。でも、この儲けがどこから出てくるか、マルクスは研究し解明したのです。

等価交換が前提ですから、不当に高く売っていません。売買から生じなければ、生産過程から生まれることになります。小麦粉などの原材料や工場の

機械等々の価値は、商品（パン）にそのまま移行し、価値は増えません。

では、もう一つの労働力商品は、どうなっているかです。一日8時間労働で労働者を雇い働かせます。労賃の総額は500万円です。でも出来上がった商品は、先に示したように1500万円です。500万円はどこから生まれたかです。

図3のように、一日8時間労働で契約した場合でも4時間が必要労働（賃金相当額）で、残り4時間は剰余労働（不払い労働）と言われてきました。

しかし、あなたは賃金分の4時間で帰ってよいとはどの資本家も言いません。一日8時間で契約したから8時間働いてもらいます、と言います。

資本家はこの剰余労働（不払い労働）が目当てで労働者を雇い働かせない労所得を得ています。また、社会が発展する富の源泉もここです。

HGⅡ徳川幕府の時代には、「五公五

1日8時間労働

必要労働4時間	剰余労働4時間
賃金支払い労働	賃金不払い労働

図3

民」という年貢制度がありました。農民が1年働きお米が10俵できたらお殿様へ5俵を年貢で納める制度です。これは、1年かけて汗水流し働いてできたお米を目の前で取られるからわかりやすいが、労働者が自分の賃金以上に生み出した剰余価値を搾取されているなどとは誰も教えてくれません。

社会主義を科学としたマルクス

司会Ⅱ概略ですが、剰余労働Ⅱ不払い

労働を搾取されていることはわかりましたね。次は、まとめの部分をお願いします。

SⅡマルクスは、唯物史観という社会発展法則の発見と剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露という二大発見を成し遂げたのです。

第一は、唯物史観による社会発展の法則の解明によって、資本主義社会の発展による内部矛盾「資本主義社会の中に、社会主義社会への必然的な物質的要素が創り出され、その上に社会主義を創造する階級も歴史的素質を持つて生まれていること」も解明し、社会主義へ転化するのであって、人間の願望としてではなく、社会発展の法則の必然で起こることも明らかにしました。

第二は、『資本論』における資本主義的運動法則の解明によって、剰余価値の法則がどのようにして、資本主義的蓄積をおしすすめ、資本主義的蓄積の一般法則がどのようにして階級闘争

を發展させるかを明らかにしたのです。このように、社会主義が人類の思想を追求する絶対的理性の運動として考えられた間は科学ではなく、資本主義的生産関係の發展の必然性が、どのように階級及び階級闘争の發展と結びついているかを明らかにすることで科学となったのです。

したがって、くどいようですが、マルクスの唯物史観という社会発展法則の発見と剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露によって、社会主義が科学となったということを押さえることが大切なのです。

司会Ⅱありがとうございます。

次回は、いよいよ第三章「資本主義の發展」に入ります。東部協の皆さん、レポートの準備をお願いします。9月号は、封建社会から資本主義にどのように変わったのか、生産力と生産関係からみてゆきます。